

## 最明寺（羽角）山古墳群

時代：古墳

所在地：愛知県西尾市上羽角町

緯度経度：34.885472、137.132806（中心位置）

遺構概要：〈現況〉山林

西尾市の東端部の丘陵上に所在する6世紀から7世紀にかけて築造された横穴式石室を持つ円墳群。地形と群集の状況から、羽根山、弘法山、薬師山、白石、高根などの12支群に区別され、1968（昭和43）年以後、発掘調査が行われたが、40基近い古墳が調査されることなく破壊された。これまでに、91基の古墳が明らかとなったが、半数近くが牧草地や工場用地の造成によって消滅した。このうち12基については発掘調査が行われ、横穴式石室や副葬品などが見つかった。主な出土品は土師器、須恵器、金環、鉄製馬具、鉄鍬、玉類および人骨などである。12支群とは独立して1基だけ建造されているのが三ノ山古墳である。古墳はデンソー工場敷地内に3基（住崎1号墳・高根1号墳・高根3号墳）、三和小学校校庭に1基（五釜1号墳）移築された。





■羽根山支群

時代：古墳

所在地：愛知県西尾市上羽角町三ノ山（通称羽根山）

緯度経度：34.889861、137.135306

遺構概要：古墳（円墳）・第1号～第12号墳、〈現況〉山林



羽根山支群



羽根山支群

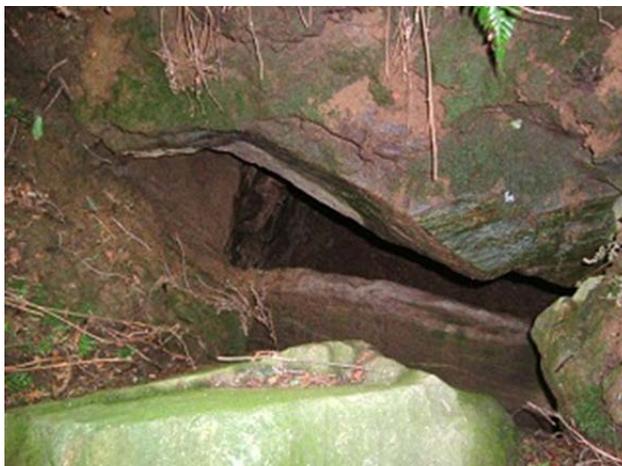
羽根山支群は羽角山の北端の斜面に12基存在。尾根から北側の下っていくと新幹線トンネル上辺りに2基の古墳がある。新幹線のトンネルのすぐ上にある1、2号墳はかなり背面カットをした円墳で石室が少し開口している。石室が大きく破壊され露出しているのが1号墳、玄室奥の方が残っているが基本的構造は弘法山支群と同じようである。もう一つが2号墳、こちらは羨道が大きく破壊されているが玄室は残存、入り口が狭くて中に入れないがこちらも構造は同じであるが、奥壁はほぼ1枚石のようである。開口部に板状の石が立てられている。



羽根山支群1号墳



羽根山支群1号墳



羽根山支群2号墳

### ■弘法山支群

時代：古墳

所在地：愛知県西尾市上羽角町三ノ山（通称弘法山）

緯度経度：34.888667、137.135778

遺構概要：古墳（円墳）・第1号～第10号墳、〈現況〉山林

弘法山支群は羽根山支群から南に斜面をのぼった平坦部に円墳が10基残っている。羽角山西側麓に最明寺がありそこから山道を登って行くと尾根上に幾つかの古墳がある。そのうち1基だけ開口、大きく盗掘され長い羨道はかなり破壊されているが玄室は割と良好に残っている。側壁は平石の小口積み、奥壁も左側は同様であるが右側に大きな石が据えられ表面が平面に仕上げられている。また、最明寺の巡礼道沿いに石仏堂として再利用されているのが1基あるが、かなり改変されているようである。



弘法山支群

### ■薬師山支群

時代：古墳

所在地：愛知県西尾市上羽角町池下（通称薬師山）

緯度経度：34.886972、137.133333

遺構概要：古墳（円墳）・第1号～第11号墳、〈現況〉山林



薬師山支群

最明寺から羽角山西側麓の道を南に下る。最初の突き出た尾根上に薬師山支群がある（最明寺の山から西に延びる標高30mの丘陵を薬師山と呼んでいる。）この丘陵の頂上から南北斜面にかけて12基の古墳がある。そのうち2つを除いていずれも盗掘痕がある。特に特徴のあるものは2号墳、3号墳そして12号墳である。これらの3つは、約5mを隔てて、石室の形状はいずれも、玄室4m、幅1.5m、八の字状に開いた羨道2.5mと同じ規格である。直径20mの規模を有する1つの墳丘に3つの石室が並べて築かれたと考えることもできる。

#### ■白石支群

時代：古墳

所在地：愛知県西尾市上羽角町三ノ山

緯度経度：34.884889、137.133556

遺構概要：古墳（円墳）・第1号～第3号墳、〈現況〉山林

最明寺山の西斜面にある1つの尾根の南斜面で標高20m～90mの間に立地している。3基の古墳が存在している。これらの古墳は盗掘によって荒らされ、開口方向も定かではない。

#### ■向山支群

時代：古墳

所在地：愛知県西尾市上羽角町三ノ山（通称向山）

緯度経度：34.883000、137.130500

遺構概要：古墳（円墳）・第1号～第10号墳、〈現況〉山林

西尾市上羽角町釜田・湯田の民家の背後にある向山の標高30m～40mの尾根が北に向かっている地点に10基の古墳が分布していた。南部分は牧草地造成による削平を受けたため1基が破壊され、北半分は共同墓地とされている。

#### ■高根支群

時代：古墳

所在地：愛知県西尾市上羽角町三ノ山（通称高根）

緯度経度：34.882028、137.133556

遺構概要：古墳（円墳）・第1号～第16号墳、〈現況〉工場

最明寺山古墳群の中でも最大の支群。標高60mの丘陵の尾根から南斜面にかけて点在していた17基の古墳が確認されている。これらの古墳は傾斜面に地山を掘り下げて石室を構え、掘り上げた土を盛り土でわずかに天井石を覆った墳丘を成している。（株）デンソーの敷地内のため、現在は発掘調査をしていない。2墓（1号墳、3号墳）は発掘調査をして、住崎1号墳の隣に移築された。

1号墳は径10mの円墳で、裾には列石が巡っている。主体部は全長4.7mの横穴式石室で、玄室と羨道は間仕切で区画している。3号墳は1号墳に隣接していた小円墳で、主体部は全長3mの横穴式石室であったがほとんど崩壊した。



本項は以下の資料から引用した。

**[六ツ美南部の歴史・文化を紐解く]**

著者 岡崎市立六ツ美南部小学校 高須 亮平

発行日 2012（平成24）年3月31日 初版発行

印刷所 ブラザー印刷株式会社

**[西尾市史（自然環境・原始古代）1]**

編集者：西尾市史編纂委員会

発行者：西尾市

発行日：1973（昭和48）年

**[西尾市ホームページ]**

<http://www.city.nishio.aichi.jp>

**[YAHOOブログ]**

<http://blogs.yahoo.co.jp/yasu1832000/14639548.html>

**[「遺跡ウォーカーβ」ホームページ]**

<http://www.isekiwalker.com>